

2018年度シラバス リハビリテーション学科理学療法専攻 正誤表

2018年10月1日現在

新									
学習成果	1	2	3	4	5				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力				
●	●			●					
科目名	解剖学Ⅰ				単位認定者	大友 篤		試験(筆記)	60%
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	1年	開講時期	前期	評価の方法	授業内課題 (口頭試験)	20%	
					単位数		2 単位	授業内課題 (レポート)	20%
					授業時間数		50 時間		
授業の概要					授業形態	講義	授業回数	25 回	
到達目標	解剖学は、人体の構造と機能を理解する学問であり医学の基礎となっている。身体内部の臓器は、骨格と密接な位置関係で配置されており、身体を切り開くことなく、体表から臓器の位置を知ることができる。本講義では、運動器系の基本となる骨と筋について学修する。解剖学Ⅰでは、人体の構造を理解するために、骨の名称、筋の名称、筋の起始・停止、筋の作用や支配神経について学修する。								
学修者への期待等	講義以外にグループ学習をしておくこと。								
回	授業計画				準備学習		担当		
1	解剖学概論 骨学総論と筋系総論				解剖学とはなにか、考えてみよう(概ね30分程度)		大友 篤		
2	骨学1:上肢骨①				鎖骨・肩甲骨・上腕骨の名称を確認しておくこと(予習・復習 概ね各1時間程度)		大友 篤		
3	骨学2:上肢骨②と連結				尺骨・橈骨・手の骨(手根骨・中手骨・指骨)の名称を確認しておくこと(予習・復習 概ね各1時間程度)		大友 篤		
4	骨学3:下肢骨①				大腿骨・脛骨・腓骨の名称を確認しておくこと(予習・復習 概ね各1時間程度)		大友 篤		
5	骨学4:下肢骨②と連結				足骨(足根骨・中足骨・跗骨)の名称を確認しておくこと(予習・復習 概ね各1時間程度)		大友 篤		
6	骨学5:脊柱・骨盤の骨①				椎骨(頸椎・胸椎・腰椎)の名称を確認しておくこと(予習・復習 概ね各1時間程度)		大友 篤		
7	骨学6:脊柱・骨盤の骨②と連結				寛骨(坐骨・長骨・恥骨)の名称を確認しておくこと(予習・復習 概ね各1時間程度)		大友 篤		
8	骨学7:胸部				胸骨と肋骨の名称について確認しておくこと(予習・復習 概ね各1時間程度)		大友 篤		
9	骨学のまとめ				骨学の総復習をしておくこと(概ね1時間程度)		大友 篤		
10	筋学1:頭部・顔面筋・頸部筋(頭神経叢)				頭部・顔面筋・頸部筋の神経支配と輔筋を確認しておくこと(予習・復習 概ね各1時間程度)		大友 篤		
11	筋学2:肩甲帯周囲筋(腕神経叢)				肩甲帯周囲筋の起始・停止、作用、神経支配と輔筋を確認しておくこと(予習・復習 概ね各1時間程度)		大友 篤		
12	筋学3:上腕の筋				上腕の筋の起始・停止、作用、神経支配と輔筋を確認しておくこと(肩関節周囲の筋筋・伸筋・外転筋・内転筋)(予習・復習 概ね各1時間程度)		大友 篤		
13	筋学4:前腕の筋①				前腕の筋の起始・停止、作用、神経支配と輔筋を確認しておくこと(予習・復習 概ね各1時間程度)		大友 篤		
14	筋学5:前腕の筋②				前腕の筋の起始・停止、作用、神経支配と輔筋を確認しておくこと(予習・復習 概ね各1時間程度)		大友 篤		
15	筋学6:手部の筋(末梢神経系)				手部の筋の起始・停止、作用、神経支配と輔筋を確認しておくこと(予習・復習 概ね各1時間程度)		大友 篤		
回	授業計画				準備学習		担当		
16	筋学7:骨盤帯の筋(腰神経叢・仙骨神経叢)				骨盤帯の筋の起始・停止、作用、神経支配と輔筋を確認しておくこと(予習・復習 概ね各1時間程度)		大友 篤		
17	筋学8:大腿部の筋				大腿部の筋の起始・停止、作用、神経支配と輔筋を確認しておくこと(予習・復習 概ね各1時間程度)		大友 篤		
18	筋学9:下腿部の筋				下腿部の筋の起始・停止、作用、神経支配と輔筋を確認しておくこと(予習・復習 概ね各1時間程度)		大友 篤		
19	筋学10:足部の筋				足部の筋の起始・停止、作用、神経支配と輔筋を確認しておくこと(予習・復習 概ね各1時間程度)		大友 篤		
20	筋学11:体幹の筋(背部・腰部)				体幹の筋の起始・停止、作用、神経支配と輔筋を確認しておくこと(予習・復習 概ね各1時間程度)		大友 篤		
21	筋学12:体幹の筋(胸部・腹部)				体幹の筋の起始・停止、作用、神経支配と輔筋を確認しておくこと(予習・復習 概ね各1時間程度)		大友 篤		
22	筋学のまとめ(末梢神経系のまとめ)				筋学の総復習をしておくこと(概ね1時間程度)		大友 篤		
23	解剖学実習に向けてのオリエンテーション				配付資料をよく読んでおくこと。		佐藤 匡		
24	東北大学解剖学実習見学①				配付資料をよく読んでおくこと。		佐藤 匡 島崎 健一郎		
25	東北大学解剖学実習見学②				配付資料をよく読んでおくこと。		佐藤 匡 島崎 健一郎		
教科書	「グレイ解剖学 原著第3版」塩田浩平訳、エルゼビア・ジャパン株式会社								
参考文献	「新・徒手筋力検査法 原著第9版」Helen J. Hislop, Dale Avers, Marybeth Brown著、津山直一・中村耕三訳、協同医学出版社 「図解 四肢と脊椎の診かた」S.Hoppenfeld著、野島元雄監訳、医歯薬出版株式会社 人体の構造と機能 エレインN.マリブ書 第4版 医学書院								
備考	A B別2クラス スケッチブック、色鉛筆を準備する。 授業内課題はレポート(スケッチブック)の提出になる。スケッチブックに骨と筋のスケッチと部位の名称等の記載が必要である。スケッチブックは、骨学、筋学講義終了後に提出し、確認後スケッチブックを返却する。								

旧									
学習成果	1	2	3	4	5				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力				
●	●			●					
科目名	解剖学Ⅰ				単位認定者	大友 篤		試験(筆記)	60%
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	1年	開講時期	前期	評価の方法	授業内課題 (口頭試験)	20%	
					単位数		2 単位	授業内課題 (レポート)	20%
					授業時間数		50 時間		
授業の概要					授業形態	講義	授業回数	25 回	
到達目標	解剖学は、人体の構造と機能を理解する学問であり医学の基礎となっている。身体内部の臓器は、骨格と密接な位置関係で配置されており、身体を切り開くことなく、体表から臓器の位置を知ることができる。本講義では、運動器系の基本となる骨と筋について学修する。解剖学Ⅰでは、人体の構造を理解するために、骨の名称、筋の名称、筋の起始・停止、筋の作用や支配神経について学修する。								
学修者への期待等	講義以外にグループ学習をしておくこと。								
回	授業計画				準備学習		担当		
1	解剖学概論 骨学総論と筋系総論				解剖学とはなにか、考えてみよう(概ね30分程度)		大友 篤		
2	骨学1:上肢骨①				鎖骨・肩甲骨・上腕骨の名称を確認しておくこと(予習・復習 概ね各1時間程度)		大友 篤		
3	骨学2:上肢骨②と連結				尺骨・橈骨・手の骨(手根骨・中手骨・指骨)の名称を確認しておくこと(予習・復習 概ね各1時間程度)		大友 篤		
4	骨学3:下肢骨①				大腿骨・脛骨・腓骨の名称を確認しておくこと(予習・復習 概ね各1時間程度)		大友 篤		
5	骨学4:下肢骨②と連結				足骨(足根骨・中足骨・跗骨)の名称を確認しておくこと(予習・復習 概ね各1時間程度)		大友 篤		
6	骨学5:脊柱・骨盤の骨①				椎骨(頸椎・胸椎・腰椎)の名称を確認しておくこと(予習・復習 概ね各1時間程度)		大友 篤		
7	骨学6:脊柱・骨盤の骨②と連結				寛骨(坐骨・長骨・恥骨)の名称を確認しておくこと(予習・復習 概ね各1時間程度)		大友 篤		
8	骨学7:胸部				胸骨と肋骨の名称について確認しておくこと(予習・復習 概ね各1時間程度)		大友 篤		
9	骨学のまとめ				骨学の総復習をしておくこと(概ね1時間程度)		大友 篤		
10	筋学1:頭部・顔面筋・頸部筋(頭神経叢)				頭部・顔面筋・頸部筋の神経支配と輔筋を確認しておくこと(予習・復習 概ね各1時間程度)		大友 篤		
11	筋学2:肩甲帯周囲筋(腕神経叢)				肩甲帯周囲筋の起始・停止、作用、神経支配と輔筋を確認しておくこと(予習・復習 概ね各1時間程度)		大友 篤		
12	筋学3:上腕の筋				上腕の筋の起始・停止、作用、神経支配と輔筋を確認しておくこと(肩関節周囲の筋筋・伸筋・外転筋・内転筋)(予習・復習 概ね各1時間程度)		大友 篤		
13	筋学4:前腕の筋①				前腕の筋の起始・停止、作用、神経支配と輔筋を確認しておくこと(予習・復習 概ね各1時間程度)		大友 篤		
14	筋学5:前腕の筋②				前腕の筋の起始・停止、作用、神経支配と輔筋を確認しておくこと(予習・復習 概ね各1時間程度)		大友 篤		
15	筋学6:手部の筋(末梢神経系)				手部の筋の起始・停止、作用、神経支配と輔筋を確認しておくこと(予習・復習 概ね各1時間程度)		大友 篤		
回	授業計画				準備学習		担当		
16	筋学7:骨盤帯の筋(腰神経叢・仙骨神経叢)				骨盤帯の筋の起始・停止、作用、神経支配と輔筋を確認しておくこと(予習・復習 概ね各1時間程度)		大友 篤		
17	筋学8:大腿部の筋				大腿部の筋の起始・停止、作用、神経支配と輔筋を確認しておくこと(予習・復習 概ね各1時間程度)		大友 篤		
18	筋学9:下腿部の筋				下腿部の筋の起始・停止、作用、神経支配と輔筋を確認しておくこと(予習・復習 概ね各1時間程度)		大友 篤		
19	筋学10:足部の筋				足部の筋の起始・停止、作用、神経支配と輔筋を確認しておくこと(予習・復習 概ね各1時間程度)		大友 篤		
20	筋学11:体幹の筋(背部・腰部)				体幹の筋の起始・停止、作用、神経支配と輔筋を確認しておくこと(予習・復習 概ね各1時間程度)		大友 篤		
21	筋学12:体幹の筋(胸部・腹部)				体幹の筋の起始・停止、作用、神経支配と輔筋を確認しておくこと(予習・復習 概ね各1時間程度)		大友 篤		
22	筋学のまとめ(末梢神経系のまとめ)				筋学の総復習をしておくこと(概ね1時間程度)		大友 篤		
23	解剖学実習に向けてのオリエンテーション				配付資料をよく読んでおくこと。		佐藤 匡		
24	東北大学解剖学実習見学①				配付資料をよく読んでおくこと。		東北大学		
25	東北大学解剖学実習見学②				配付資料をよく読んでおくこと。		東北大学		
教科書	「グレイ解剖学 原著第3版」塩田浩平訳、エルゼビア・ジャパン株式会社								
参考文献	「新・徒手筋力検査法 原著第9版」Helen J. Hislop, Dale Avers, Marybeth Brown著、津山直一・中村耕三訳、協同医学出版社 「図解 四肢と脊椎の診かた」S.Hoppenfeld著、野島元雄監訳、医歯薬出版株式会社 人体の構造と機能 エレインN.マリブ書 第4版 医学書院								
備考	A B別2クラス スケッチブック、色鉛筆を準備する。 授業内課題はレポート(スケッチブック)の提出になる。スケッチブックに骨と筋のスケッチと部位の名称等の記載が必要である。スケッチブックは、骨学、筋学講義終了後に提出し、確認後スケッチブックを返却する。								

学習成果	1	2	3	4	5							
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力							
	●		●	●								
科目名	大学生生活論				単位認定者	三浦 雅史 池田 登顕 佐々木 広人		評価の方法	試験 (レポート課題)	95 %		
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	1年	開講時期	通年	単位数	1 単位		Seiyoドリル	5 %		
授業の概要					授業形態			講義				
	大学生生活を有意義に送るために必要となる姿勢、知識やスキルを身につける。具体的には、本学・各学科の教育方針の理解、大学での学び方（レポートの書き方、図書館の活用法等）、大学生生活の基礎知識（ネット社会の危険、消費者トラブル、交通ルールとマナー等）、健康に関わる知識（睡眠・食生活、ドラッグの危険性、大学生が出会うところの問題等）を身につける。					授業回数			15 回			
到達目標	1. 大学生・社会人としての基本的マナーを身につける。 2. 大学生生活を有意義に送るための知識やスキルを身につける。 3. 大学での学びを基盤に、学習の自己管理ができる。											
学修者への期待等	大学生生活を有意義に送るために設定した科目である。自己の目標を叶えるために、積極的に学ぶことを期待する。さらに多くの仲間をつくり、いろいろな考えに触れてほしい。											
回	授業計画				準備学習				担当			
1	学内オリエンテーション（本学の教育方針）				学生便覧をよく読んでおくこと（概ね30分程度）				吉川 法生			
2	大学生生活に関わる基礎知識1（学校生活のルール）				大学生とは何かを考えてくること（概ね30分程度）				学生総合支援センター			
3	大学生生活に関わる基礎知識2（新生活での注意点 生活トラブル 交通ルール）				前回の授業内容をノートにまとめてくること（概ね30分程度）				学生総合支援センター			
4	大学生生活に関わる基礎知識3（ネットの危険 情報モラル、ハラスメント）				ハラスメントについて調べておくこと（概ね30分程度）				吉川 法生 齋藤 祐樹 森永 雄			
5	大学生生活に関わる基礎知識4（消費者トラブルについて）				消費者トラブルとは何か考えてくること（概ね30分程度）				学生総合支援センター			
6	大学生生活での学び1（カリキュラム）				学生便覧をよく読んでおくこと（概ね30分程度）				三浦 雅史			
7	大学生生活での学び2（授業の受け方 ノートの取り方）				前回の授業内容をノートにまとめてくること（概ね30分程度）				池田 登顕 佐々木 広人			
8	大学生生活での学び3（自己学習 予習復習）				前回の授業内容をノートにまとめてくること（概ね30分程度）				池田 登顕 佐々木 広人			
9	大学生生活での学び4（図書館の利用 文献検索の仕方）				学生便覧をよく読んでおくこと（概ね30分程度）				学生総合支援センター			
10	健康に関する知識1（睡眠 食生活 ドラッグの危険性）				健康に関して調べてくること（概ね30分程度）				学生総合支援センター 飯室 勉			
11	健康に関する知識2（大学生が出会う心の問題）				前回の授業内容をノートにまとめてくること（概ね30分程度）				学生総合支援センター			
12	先輩から学ぶ大学生生活				前回の授業内容をノートにまとめてくること（概ね30分程度）				池田 登顕 佐々木 広人			
13	大学生生活と地域社会1（郷土史を学ぶ）				前回の授業内容をノートにまとめてくること（概ね30分程度）				内田 貴和 池田 登顕 佐々木 広人			
14	大学生生活と地域社会2（社会体験）				自分たちが社会に貢献できることについて考えてくること（概ね30分程度）				池田 登顕 佐々木 広人			
15	1年間のまとめと自身の課題の明確化：グループワーク				グループワークの準備をしてくること（概ね30分程度）				池田 登顕 佐々木 広人			
教科書	2018年度入学生用 学生便覧											
参考文献	特になし											
備考	1～6、10、13回はPTOT合同授業。 大学生生活論専用のノートを作成し、持参すること。レポート課題のフィードバックはノートにコメントする。 Seiyoドリルにより自主学習を行います。											

学習成果	1	2	3	4	5							
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力							
	●		●	●								
科目名	大学生生活論				単位認定者	大和田 宏美 池田 登顕 佐々木 広人		評価の方法	試験 (レポート課題)	100 %		
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	1年	開講時期	通年	単位数	1 単位		Seiyoドリル	5 %		
授業の概要					授業形態			講義				
	大学生生活を有意義に送るために必要となる姿勢、知識やスキルを身につける。具体的には、本学・各学科の教育方針の理解、大学での学び方（レポートの書き方、図書館の活用法等）、大学生生活の基礎知識（ネット社会の危険、消費者トラブル、交通ルールとマナー等）、健康に関わる知識（睡眠・食生活、ドラッグの危険性、大学生が出会うところの問題等）を身につける。					授業回数			15 回			
到達目標	1. 大学生・社会人としての基本的マナーを身につける。 2. 大学生生活を有意義に送るための知識やスキルを身につける。 3. 大学での学びを基盤に、学習の自己管理ができる。											
学修者への期待等	大学生生活を有意義に送るために設定した科目である。自己の目標を叶えるために、積極的に学ぶことを期待する。さらに多くの仲間をつくり、いろいろな考えに触れてほしい。											
回	授業計画				準備学習				担当			
1	学内オリエンテーション（本学の教育方針）				学生便覧をよく読んでおくこと（概ね30分程度）				吉川 法生			
2	大学生生活に関わる基礎知識1（学校生活のルール）				大学生とは何かを考えてくること（概ね30分程度）				学生総合支援センター			
3	大学生生活に関わる基礎知識2（新生活での注意点 生活トラブル 交通ルール）				前回の授業内容をノートにまとめてくること（概ね30分程度）				学生総合支援センター			
4	大学生生活に関わる基礎知識3（ネットの危険 情報モラル、ハラスメント）				ハラスメントについて調べておくこと（概ね30分程度）				吉川 法生			
5	大学生生活に関わる基礎知識4（消費者トラブルについて）				消費者トラブルとは何か考えてくること（概ね30分程度）				学生総合支援センター			
6	大学生生活での学び1（カリキュラム）				学生便覧をよく読んでおくこと（概ね30分程度）				大和田 宏美			
7	大学生生活での学び2（授業の受け方 ノートの取り方）				前回の授業内容をノートにまとめてくること（概ね30分程度）				池田 登顕 佐々木 広人			
8	大学生生活での学び3（自己学習 予習復習）				前回の授業内容をノートにまとめてくること（概ね30分程度）				池田 登顕 佐々木 広人			
9	大学生生活での学び4（図書館の利用 文献検索の仕方）				学生便覧をよく読んでおくこと（概ね30分程度）				学生総合支援センター			
10	健康に関する知識1（睡眠 食生活 ドラッグの危険性）				健康に関して調べてくること（概ね30分程度）				学生総合支援センター			
11	健康に関する知識2（大学生が出会う心の問題）				前回の授業内容をノートにまとめてくること（概ね30分程度）				学生総合支援センター			
12	先輩から学ぶ大学生生活				前回の授業内容をノートにまとめてくること（概ね30分程度）				池田 登顕 佐々木 広人			
13	大学生生活と地域社会1（郷土史を学ぶ）				前回の授業内容をノートにまとめてくること（概ね30分程度）				内田 貴和 池田 登顕 佐々木 広人			
14	大学生生活と地域社会2（社会体験）				自分たちが社会に貢献できることについて考えてくること（概ね30分程度）				池田 登顕 佐々木 広人			
15	1年間のまとめと自身の課題の明確化：グループワーク				グループワークの準備をしてくること（概ね30分程度）				池田 登顕 佐々木 広人			
教科書	2018年度入学生用 学生便覧											
参考文献	特になし											
備考	大学生生活論専用のノートを作成し、持参すること。 レポート課題のフィードバックはノートにコメントする。											

学習成果	1	2	3	4	5					試験(筆記)	100%
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力						
		●	●	●							
科目名	内部障害系理学療法学				単位認定者	大和田 宏美 村上 賢治 坂上 尚徳 大友 篤			評価の方法		
対象学科 必修・選択 配当年次	PT 担当主	必修	2年	開講時期	通年	単位数	3	単位	試験(筆記)	100%	
				授業形態	講義	授業時間数	60	時間			
授業の概要	内部障害疾患における病態把握とリスク管理、合併症、理学療法評価、理学療法プログラム、各疾患特有のADL評価について理解する。内部障害学総論、呼吸理学療法、循環器理学療法、糖尿病の理学療法、腎臓リハビリテーション、がんのリハビリテーションなどについて学修する。										
到達目標	内部障害領域の呼吸器系、循環器系、腎臓系、がんのリハビリテーションに対する理解を深め、各領域分野の役割と実際について学ぶことを目標とする。 1.呼吸器系・循環器系・腎臓系の特徴を理解し、内部障害のリハビリテーションを理解できるようになる。 2.各疾患におけるリスク管理について理解できるようになる。 3.各疾患の症状と障害および理学療法の理論と実際を関連付けて理解できるようになる。										
学修者への 期待等	臨床実習で内部障害領域の対象者に対して評価や治療プログラムの立案、理学療法治療の実施ができるように学修してください。										
回	授業計画				準備学習				担当		
1	内部障害学総論				内部障害のリハビリテーションについて調べておくこと。				大和田 宏美		
2	循環器の理学療法概論（構造と機能）				教科書の該当箇所を精読する。 (概ね60分程度)				村上 賢治		
3	循環器リハビリテーション対象疾患の病態								村上 賢治		
4	心電図の基礎								村上 賢治		
5	心電図の診かたと不整脈								村上 賢治		
6	循環器疾患に対する理学療法① 虚血性心疾患に対する病態と評価								村上 賢治		
7	循環器疾患に対する理学療法② 虚血性心疾患に対する運動療法								村上 賢治		
8	循環器疾患に対する理学療法③ 心不全に対する病態と評価								村上 賢治		
9	循環器疾患に対する理学療法④ 心不全に対する運動療法								村上 賢治		
10	循環器疾患に対する理学療法⑤ 大動脈疾患に対する評価・運動療法								村上 賢治		
11	循環器疾患に対する理学療法⑥ 末梢動脈・静脈疾患に対する評価・運動療法								村上 賢治		
12	呼吸器系の解剖学・生理学（1）								呼吸器系の解剖学・運動学・生理学を復習しておくこと。教科書の該当箇所を精読すること（予習60分）。		
13	呼吸器系の解剖学・生理学（2）								大和田 宏美		
14	呼吸不全と呼吸器疾患				内科学の復習をしておくこと。教科書の該当箇所を精読すること（予習60分）。				大和田 宏美		
15	胸部レントゲン写真の見方・CT所見の見方				配付資料を読んでおくこと（予習60分）。				大和田 宏美		
回	授業計画				準備学習				担当		
16	呼吸理学療法のための評価（1）								大和田 宏美		
17	呼吸理学療法のための評価（2）								大和田 宏美		
18	呼吸器疾患と理学療法（1）				①当該疾患の病態、評価、理学療法について、教科書にて予習する（概ね30分程度）				大和田 宏美		
19	呼吸器疾患と理学療法（2）				②一般的理学療法評価・治療の技術の復習をする（概ね60分程度）				大和田 宏美		
20	呼吸器疾患と理学療法（3）								大和田 宏美		
21	人工呼吸管理下の呼吸理学療法								大和田 宏美		
22	呼吸器疾患のまとめ（症例検討）				呼吸器系の理学療法について理解を深めておくこと（復習60分）。				大和田 宏美		
23	糖尿病に対する理学療法① 糖代謝の機能				予習：代謝（エネルギー・糖）について復習する。（予習概ね60分程度）				坂上 尚徳		
24	糖尿病に対する理学療法② 病態と合併症				教科書の該当箇所を精読する。 (予習・復習概ね30分程度)				坂上 尚徳		
25	糖尿病に対する理学療法③ 運動療法の効果								坂上 尚徳		
26	糖尿病に対する理学療法④ 足病変に対する理学療法				課題（実施時間概ね60分程度）				坂上 尚徳		
27	腎臓疾患に対する理学療法① 腎臓の機能と症状				予習：腎臓の生理学について復習する。（予習概ね1時間程度）				坂上 尚徳		
28	腎臓疾患に対する理学療法② 理学療法の実践				教科書の該当箇所を精読する。（予習・復習概ね30分程度）				坂上 尚徳		
29	がんに対する理学療法① がんのリハビリテーション概要（病態、治療、病期別リハビリ）				予習：病理学の教科書の腫瘍についてを復習する。（概ね60分程度）				大友 篤		
30	がんのリハビリの実践② がんのリハビリの実践（評価、病期別リハビリの実践、心のケア）				教科書の該当箇所を精読する。（予習・復習概ね30分程度）				大友 篤		
教科書	「内部障害理学療法学テキスト 改定第3版」細田多徳 編、南江堂										
参考文献	「循環器理学療法の理論と技術」増田卓・松永篤彦編、メジカルビュー社 「がんのリハビリテーションガイドライン」日本リハビリテーション医学会、金原出版 「冊子：がんの療養とリハビリテーション」国立がん研究センター、がん対策情報センター										
備考	1回、12～22回はAB合同授業。2～11回、23回～30回はAB別2クラス授業。										

学習成果	1	2	3	4	5					試験(筆記)	100%
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力						
		●	●	●							
科目名	内部障害系理学療法学				単位認定者	大和田 宏美 村上 賢治 坂上 尚徳 大友 篤			評価の方法		
対象学科 必修・選択 配当年次	PT 担当主	必修	2年	開講時期	通年	単位数	3	単位	試験(筆記)	100%	
				授業形態	講義	授業時間数	60	時間			
授業の概要	内部障害疾患における病態把握とリスク管理、合併症、理学療法評価、理学療法プログラム、各疾患特有のADL評価について理解する。内部障害学総論、呼吸理学療法、循環器理学療法、糖尿病の理学療法、腎臓リハビリテーション、がんのリハビリテーションなどについて学修する。										
到達目標	内部障害領域の呼吸器系、循環器系、腎臓系、がんのリハビリテーションに対する理解を深め、各領域分野の役割と実際について学ぶことを目標とする。 1.呼吸器系・循環器系・腎臓系の特徴を理解し、内部障害のリハビリテーションを理解できるようになる。 2.各疾患におけるリスク管理について理解できるようになる。 3.各疾患の症状と障害および理学療法の理論と実際を関連付けて理解できるようになる。										
学修者への 期待等	臨床実習で内部障害領域の対象者に対して評価や治療プログラムの立案、理学療法治療の実施ができるように学修してください。										
回	授業計画				準備学習				担当		
1	内部障害学総論				内部障害のリハビリテーションについて調べておくこと。				大和田 宏美		
2	循環器の理学療法概論（構造と機能）				教科書の該当箇所を精読する。 (概ね60分程度)				村上 賢治		
3	循環器リハビリテーション対象疾患の病態								村上 賢治		
4	心電図の基礎								村上 賢治		
5	心電図の診かたと不整脈								村上 賢治		
6	循環器疾患に対する理学療法① 虚血性心疾患に対する病態と評価								村上 賢治		
7	循環器疾患に対する理学療法② 虚血性心疾患に対する運動療法								村上 賢治		
8	循環器疾患に対する理学療法③ 心不全に対する病態と評価								村上 賢治		
9	循環器疾患に対する理学療法④ 心不全に対する運動療法								村上 賢治		
10	循環器疾患に対する理学療法⑤ 大動脈疾患に対する評価・運動療法								村上 賢治		
11	循環器疾患に対する理学療法⑥ 末梢動脈・静脈疾患に対する評価・運動療法								村上 賢治		
12	呼吸器系の解剖学・生理学（1）								呼吸器系の解剖学・運動学・生理学を復習しておくこと。教科書の該当箇所を精読すること（予習60分）。		
13	呼吸器系の解剖学・生理学（2）								大和田 宏美		
14	呼吸不全と呼吸器疾患				内科学の復習をしておくこと。教科書の該当箇所を精読すること（予習60分）。				大和田 宏美		
15	胸部レントゲン写真の見方・CT所見の見方				配付資料を読んでおくこと（予習60分）。				大和田 宏美		
回	授業計画				準備学習				担当		
16	呼吸理学療法のための評価（1）								大和田 宏美		
17	呼吸理学療法のための評価（2）								大和田 宏美		
18	呼吸器疾患と理学療法（1）				①当該疾患の病態、評価、理学療法について、教科書にて予習する（概ね30分程度）				大和田 宏美		
19	呼吸器疾患と理学療法（2）				②一般的理学療法評価・治療の技術の復習をする（概ね60分程度）				大和田 宏美		
20	呼吸器疾患と理学療法（3）								大和田 宏美		
21	人工呼吸管理下の呼吸理学療法								大和田 宏美		
22	呼吸器疾患のまとめ（症例検討）				呼吸器系の理学療法について理解を深めておくこと（復習60分）。				大和田 宏美		
23	糖尿病に対する理学療法① 糖代謝の機能				予習：代謝（エネルギー・糖）について復習する。（予習概ね60分程度）				坂上 尚徳		
24	糖尿病に対する理学療法② 病態と合併症				教科書の該当箇所を精読する。 (予習・復習概ね30分程度)				坂上 尚徳		
25	糖尿病に対する理学療法③ 運動療法の効果								坂上 尚徳		
26	糖尿病に対する理学療法④ 足病変に対する理学療法				課題（実施時間概ね60分程度）				坂上 尚徳		
27	腎臓疾患に対する理学療法① 腎臓の機能と症状				予習：腎臓の生理学について復習する。（予習概ね1時間程度）				坂上 尚徳		
28	腎臓疾患に対する理学療法② 理学療法の実践				教科書の該当箇所を精読する。（予習・復習概ね30分程度）				坂上 尚徳		
29	がんに対する理学療法① がんのリハビリテーション概要（病態、治療、病期別リハビリ）				予習：病理学の教科書の腫瘍についてを復習する。（概ね60分程度）				大友 篤		
30	がんのリハビリの実践② がんのリハビリの実践（評価、病期別リハビリの実践、心のケア）				教科書の該当箇所を精読する。（予習・復習概ね30分程度）				大友 篤		
教科書	「内部障害理学療法学テキスト 改定第3版」細田多徳 編、南江堂										
参考文献	「循環器理学療法の理論と技術」増田卓・松永篤彦編、メジカルビュー社 「がんのリハビリテーションガイドライン」日本リハビリテーション医学会、金原出版 「冊子：がんの療養とリハビリテーション」国立がん研究センター、がん対策情報センター										
備考	AB別2クラス										

学習成果	1	2	3	4	5							
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力							
		●	●	●								
科目名	臨床能力演習				単位認定者	池田 登顕		評価の方法	授業内課題 (レポート)		100 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	PT 登顕主	必修	2年	開講時期	後期	単位数	1 単位		授業時間数	30 時間	授業回数	15 回
					授業形態	演習						
授業の概要	臨床実習に向けて、理学療法士として必要な接遇、対人コミュニケーション、基本的な評価技術能力を身に付ける必要がある。臨床能力演習では、客観的臨床能力試験 (OSCE) を実施し、症例に即した理学療法評価を円滑に実施できるようになることを目的とする。さらに、理学療法評価項目の選択、問題点の抽出、治療プログラムの立案に至るそのプロセスを学修する。											
到達目標	1. 対象疾患に対し臨床思考過程の基本的な流れを実践できるようになる。 2. 理学療法評価および理学療法を実施する上でのリスク管理を理解することができる。 3. ICFの概念に基づき、障害を構造的に捉え、対象者の持つ問題点を列挙できるようになる。 4. 専門用語を的確に用いた「症例のまとめ」ができるようになる。											
学修者への期待等	理学療法評価結果の「統合と解釈」を中心としたグループ学習および「症例のまとめ」の作成の演習を行います。課題に対しては、教科書や文献などを自ら調べ、諸問題に対する解決能力の向上が求められています。学生各自の積極的な取り組みとグループ内での活発なディスカッションを期待しています。											
回	授業計画					準備学習						
1	オリエンテーション：症例のまとめ方 (スライド・レジュメの作成方法)、ICFの分類の仕方について					復習を行い、症例のまとめ方について理解をすること						
2	筋・骨格系疾患と臨床思考過程 (グループワーク)					評価学や疾患別理学療法で学んだことの復習をしておくこと (概ね60分程度)。						
3	筋・骨格系疾患と臨床思考過程 (グループワーク)					レジュメの作成およびパワーポイントにて、発表準備 (概ね120分程度)。						
4	筋・骨格系疾患と臨床思考過程 (発表)					他グループの疾患についても評価学や疾患別理学療法で学んだことの復習をしておくこと (概ね60分程度)。						
5	筋・骨格系疾患と臨床思考過程 (発表/まとめ)											
6	中枢神経系疾患と臨床思考過程 (グループワーク)					評価学や疾患別理学療法で学んだことの復習をしておくこと (概ね60分程度)。						
7	中枢神経系疾患と臨床思考過程 (グループワーク)					レジュメの作成およびパワーポイントにて、発表準備 (概ね120分程度)。						
8	中枢神経系疾患と臨床思考過程 (発表)					他グループの疾患についても評価学や疾患別理学療法で学んだことの復習をしておくこと (概ね60分程度)。						
9	中枢神経系疾患と臨床思考過程 (発表/まとめ)											
10	内部障害系疾患と臨床思考過程 (グループワーク)					評価学や疾患別理学療法で学んだことの復習をしておくこと (概ね60分程度)。						
11	内部障害系疾患と臨床思考過程 (グループワーク)					レジュメの作成およびパワーポイントにて、発表準備 (概ね120分程度)。						
12	内部障害系疾患と臨床思考過程 (発表)					他グループの疾患についても評価学や疾患別理学療法で学んだことの復習をしておくこと (概ね60分程度)。						
13	内部障害系疾患と臨床思考過程 (発表/まとめ)											
14	まとめ (症例のまとめ方について)					症例のまとめ方について復習すること (概ね60分程度)。						
15	まとめ (症例のまとめ方について)					症例のまとめ方について復習すること (概ね120分程度)。						
教科書	「PT 症例レポート赤ペン添削 ビフォー&アフター」相澤純也、美崎定也、石黒幸治 (編集)、羊土社											
参考文献	「PT・OTのための臨床技能とOSCE 機能障害・能力低下への介入編」才藤栄一監修、金原出版											
備考	A B別2クラス 本講義は、理学療法学専攻教員によって実施 (理学療法学専攻教員：加藤勝行、三浦雅史、大友篤、大橋孝子、上村太一、坂上尚穂、村上賢治、池田登顕、遠藤康裕、片田昌子、小関友記、森永雄、鈴木裕治、佐々木広人) また、課題の模範解答や総括をティーチングポートフォリオへ投稿する。											

学習成果	1	2	3	4	5						
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力						
		●	●	●							
科目名	臨床能力演習				単位認定者	池田 登顕		評価の方法	試験 (実技)	70 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	PT 登顕主	必修	2年	開講時期	後期	単位数	1 単位		授業内課題 (レポート)	30 %	
					授業形態	演習					
授業の概要	臨床実習に向けて、理学療法士として必要な接遇、対人コミュニケーション、基本的な評価技術能力を身に付ける必要がある。臨床能力演習では、客観的臨床能力試験 (OSCE) を実施し、症例に即した理学療法評価を円滑に実施できるようになることを目的とする。さらに、理学療法評価項目の選択、問題点の抽出、治療プログラムの立案に至るそのプロセスを学修する。										
到達目標	1. 対象疾患に対し臨床思考過程の基本的な流れを実践できるようになる。 2. 理学療法評価および理学療法を実施する上でのリスク管理ができるようになる。 3. ICFの概念に基づき、障害を構造的に捉え、対象者の持つ問題点を列挙できるようになる。 4. 専門用語を的確に用いた「症例ノート」の作成ができるようになる。										
学修者への期待等	理学療法評価結果の「統合と解釈」を中心としたグループ学習および「症例ノート」の作成の演習を行います。課題に対しては、教科書や文献などを自ら調べ、諸問題に対する解決能力の向上が求められています。学生各自の積極的な取り組みとグループ内での活発なディスカッションを期待しています。										
回	授業計画					準備学習					
1	オリエンテーション：臨床思考過程/症例ノートの書き方について					症例ノート重要なかを学習しておくこと (概ね60分程度)。					
2	筋・骨格系疾患と臨床思考過程 (グループワーク)					評価学や疾患別理学療法で学んだことの復習をしておくこと (概ね60分程度)。					
3	筋・骨格系疾患と臨床思考過程 (グループワーク)					レジュメの作成およびパワーポイントにて、発表準備 (概ね120分程度)。					
4	筋・骨格系疾患と臨床思考過程 (発表)					他グループの疾患についても評価学や疾患別理学療法で学んだことの復習をしておくこと (概ね60分程度)。					
5	筋・骨格系疾患と臨床思考過程 (発表/まとめ)										
6	中枢神経系疾患と臨床思考過程 (グループワーク)					評価学や疾患別理学療法で学んだことの復習をしておくこと (概ね60分程度)。					
7	中枢神経系疾患と臨床思考過程 (グループワーク)					レジュメの作成およびパワーポイントにて、発表準備 (概ね120分程度)。					
8	中枢神経系疾患と臨床思考過程 (発表)					他グループの疾患についても評価学や疾患別理学療法で学んだことの復習をしておくこと (概ね60分程度)。					
9	中枢神経系疾患と臨床思考過程 (発表/まとめ)										
10	内部障害系疾患と臨床思考過程 (グループワーク)					評価学や疾患別理学療法で学んだことの復習をしておくこと (概ね60分程度)。					
11	内部障害系疾患と臨床思考過程 (グループワーク)					レジュメの作成およびパワーポイントにて、発表準備 (概ね120分程度)。					
12	内部障害系疾患と臨床思考過程 (発表)					他グループの疾患についても評価学や疾患別理学療法で学んだことの復習をしておくこと (概ね60分程度)。					
13	内部障害系疾患と臨床思考過程 (発表/まとめ)										
14	まとめ (症例ノートの書き方について)					「症例ノート」の書き方について復習すること (概ね60分程度)。					
15	まとめ (臨床思考過程について)					「統合と解釈」について復習すること (概ね120分程度)。					
教科書	「PT 症例レポート赤ペン添削 ビフォー&アフター」相澤純也、美崎定也、石黒幸治 (編集)、羊土社										
参考文献	「PT・OTのための臨床技能とOSCE 機能障害・能力低下への介入編」才藤栄一監修、金原出版										
備考	A B別2クラス 本講義は、理学療法学専攻教員によって実施 (理学療法学専攻教員：加藤勝行、三浦雅史、大友篤、大橋孝子、上村太一、坂上尚穂、村上賢治、池田登顕、遠藤康裕、片田昌子、小関友記、森永雄、鈴木裕治、佐々木広人) また、課題の模範解答や総括をティーチングポートフォリオへ投稿する。										

学習成果	1	2	3	4	5					
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力					
		●	●	●						
科目名	臨床能力演習				単位認定者	池田 登頭		評価の方法	授業内課題 (レポート)	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	PT夜間主	必修	2年	開講時期	後期	単位数	1 単位		授業形態	授業時間数
						授業回数	15 回			
授業の概要	臨床実習に向けて、理学療法士として必要な接遇、対人コミュニケーション、基本的な評価技術能力を身に付ける必要がある。臨床能力演習では、客観的臨床能力試験 (OSCE) を実施し、症例に即した理学療法評価を円滑に実施できるようになることを目的とする。さらに、理学療法評価項目の選択、問題点の抽出、治療プログラムの立案に至るそのプロセスを学修する。									
到達目標	1. 対象疾患に対し臨床思考過程の基本的な流れを実践できるようになる。 2. 理学療法評価および理学療法を実施する上でのリスク管理を理解することができる。 3. ICFの概念に基づき、障害を構造的に捉え、対象者の持つ問題点を列挙できるようになる。 4. 専門用語を的確に用いた症例のまとめができるようになる。									
学修者への期待等	理学療法評価結果の「統合と解釈」を中心としたグループ学習および症例のまとめの作成の演習をしていきます。課題に対しては、教科書や文献などを自ら調べ、諸問題に対する解決能力の向上が求められています。学生各自の積極的な取り組みとグループ内での活発なディスカッションを期待しています。									
回	授業計画				準備学習					
1	オリエンテーション：症例のまとめ方 (スライド・レジュメの作成方法)、ICFの分類の仕方について				復習を行い、症例のまとめ方について理解をすること					
2	筋・骨格系疾患と臨床思考過程 (グループワーク)				評価学や疾患別理学療法で学んだことの復習をしておくこと (概ね60分程度)。					
3	筋・骨格系疾患と臨床思考過程 (グループワーク)				レジュメの作成およびパワーポイントにて、発表準備 (概ね120分程度)。					
4	筋・骨格系疾患と臨床思考過程 (発表)				他グループの疾患についても評価学や疾患別理学療法で学んだことの復習をしておくこと (概ね60分程度)。					
5	筋・骨格系疾患と臨床思考過程 (発表/まとめ)									
6	中枢神経系疾患と臨床思考過程 (グループワーク)				評価学や疾患別理学療法で学んだことの復習をしておくこと (概ね60分程度)。					
7	中枢神経系疾患と臨床思考過程 (グループワーク)				レジュメの作成およびパワーポイントにて、発表準備 (概ね120分程度)。					
8	中枢神経系疾患と臨床思考過程 (発表)				他グループの疾患についても評価学や疾患別理学療法で学んだことの復習をしておくこと (概ね60分程度)。					
9	中枢神経系疾患と臨床思考過程 (発表/まとめ)									
10	内部障害系疾患と臨床思考過程 (グループワーク)				評価学や疾患別理学療法で学んだことの復習をしておくこと (概ね60分程度)。					
11	内部障害系疾患と臨床思考過程 (グループワーク)				レジュメの作成およびパワーポイントにて、発表準備 (概ね120分程度)。					
12	内部障害系疾患と臨床思考過程 (発表)				他グループの疾患についても評価学や疾患別理学療法で学んだことの復習をしておくこと (概ね60分程度)。					
13	内部障害系疾患と臨床思考過程 (発表/まとめ)									
14	まとめ (症例のまとめ方について)				症例のまとめ方について復習すること (概ね60分程度)。					
15	まとめ (症例のまとめ方について)				症例のまとめ方について復習すること (概ね120分程度)。					
教科書	「PT 症例レポート赤ペン添削 ビフォー&アフター」相澤純也、美崎定也、石黒幸治 (編集)、羊土社									
参考文献	「PT・OTのための臨床技能とOSCE 機能障害・能力低下への介入編」才藤栄一監修、金原出版									
備考	課題の模範解答や総括をティーチングポートフォリオへ投稿する。									

学習成果	1	2	3	4	5					
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力					
		●	●	●						
科目名	臨床能力演習				単位認定者	池田 登頭		評価の方法	試験(実技)	70 %
対象学科 必修・選択 配当年次	PT夜間主	必修	2年	開講時期	後期	単位数	1 単位		授業形態	授業内課題 (レポート)
						授業回数	15 回			
授業の概要	臨床実習に向けて、理学療法士として必要な接遇、対人コミュニケーション、基本的な評価技術能力を身に付ける必要がある。臨床能力演習では、客観的臨床能力試験 (OSCE) を実施し、症例に即した理学療法評価を円滑に実施できるようになることを目的とする。さらに、理学療法評価項目の選択、問題点の抽出、治療プログラムの立案に至るそのプロセスを学修する。									
到達目標	1. 対象疾患に対し臨床思考過程の基本的な流れを実践できるようになる。 2. 理学療法評価および理学療法を実施する上でのリスク管理ができるようになる。 3. ICFの概念に基づき、障害を構造的に捉え、対象者の持つ問題点を列挙できるようになる。 4. 専門用語を的確に用いた「症例ノート」の作成ができるようになる。									
学修者への期待等	理学療法評価結果の「統合と解釈」を中心としたグループ学習および「症例ノート」の作成の演習をしていきます。課題に対しては、教科書や文献などを自ら調べ、諸問題に対する解決能力の向上が求められています。学生各自の積極的な取り組みとグループ内での活発なディスカッションを期待しています。									
回	授業計画				準備学習					
1	オリエンテーション：臨床思考過程/症例ノートの書き方について				症例ノート重要なのかを学習しておくこと (概ね60分程度)。					
2	筋・骨格系疾患と臨床思考過程 (グループワーク)				評価学や疾患別理学療法で学んだことの復習をしておくこと (概ね60分程度)。					
3	筋・骨格系疾患と臨床思考過程 (グループワーク)				レジュメの作成およびパワーポイントにて、発表準備 (概ね120分程度)。					
4	筋・骨格系疾患と臨床思考過程 (発表)				他グループの疾患についても評価学や疾患別理学療法で学んだことの復習をしておくこと (概ね60分程度)。					
5	筋・骨格系疾患と臨床思考過程 (発表/まとめ)									
6	中枢神経系疾患と臨床思考過程 (グループワーク)				評価学や疾患別理学療法で学んだことの復習をしておくこと (概ね60分程度)。					
7	中枢神経系疾患と臨床思考過程 (グループワーク)				レジュメの作成およびパワーポイントにて、発表準備 (概ね120分程度)。					
8	中枢神経系疾患と臨床思考過程 (発表)				他グループの疾患についても評価学や疾患別理学療法で学んだことの復習をしておくこと (概ね60分程度)。					
9	中枢神経系疾患と臨床思考過程 (発表/まとめ)									
10	内部障害系疾患と臨床思考過程 (グループワーク)				評価学や疾患別理学療法で学んだことの復習をしておくこと (概ね60分程度)。					
11	内部障害系疾患と臨床思考過程 (グループワーク)				レジュメの作成およびパワーポイントにて、発表準備 (概ね120分程度)。					
12	内部障害系疾患と臨床思考過程 (発表)				他グループの疾患についても評価学や疾患別理学療法で学んだことの復習をしておくこと (概ね60分程度)。					
13	内部障害系疾患と臨床思考過程 (発表/まとめ)									
14	まとめ (症例ノートの書き方について)				「症例ノート」の書き方について復習すること (概ね60分程度)。					
15	まとめ (臨床思考過程について)				「統合と解釈」について復習すること (概ね120分程度)。					
教科書	「PT 症例レポート赤ペン添削 ビフォー&アフター」相澤純也、美崎定也、石黒幸治 (編集)、羊土社									
参考文献	「PT・OTのための臨床技能とOSCE 機能障害・能力低下への介入編」才藤栄一監修、金原出版									
備考	課題の模範解答や総括をティーチングポートフォリオへ投稿する。									